

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## 冬期のチャトゲコナジラミ対策について

昨年3月、県内の一部地域の茶園においてチャトゲコナジラミの発生が初めて確認されました。本虫は増殖力が高く、薬剤防除等の対策が行われなかった場合には、急激に増加してすす病などの被害をもたらします。

本種の防除対策としては冬期の薬剤防除を徹底し、春先の増殖源となる越冬幼虫の密度を低く抑えることが重要です。

つきましては、下記事項を参考に冬期防除対策を徹底してください。

### 記

#### 1. 県内での発生状況

- 1) 平成26年3月下旬に、県西部地域の一部茶園において、葉裏にチャトゲコナジラミの寄生が確認された（[平成26年4月9日付病害虫発生予察特殊報第1号参照](#)）。
- 2) 発生地域の茶園では、薬剤防除及び耕種の防除（すそ刈り、枝条更新など）による防除対策に取り組まれ、現在の発生密度は低下している。
- 3) しかし、当該地区における発生地域は緩やかな拡大傾向にあり、引き続き発生状況の確認調査と防除対策を実施している。

#### 2. 防除対策

- 1) 冬期には、ハダニ類の防除を兼ねて、マシン油乳剤の散布を必ず行う。さらに、春期以降は表1及び表2を参考にして、指導機関からの情報を元に適期防除を行う。
- 2) 幼虫は下位葉の葉裏、成虫は新芽に寄生しやすいので、図1を参考に圃場を定期的に観察して早期発見に努め、未発生地において発生が疑われる場合は速やかに関係機関へ連絡する。
- 3) 成園では、寄生の多いすそ葉の葉裏にも薬液が十分にかかるよう、すそ部から茶株頂上部に向けて斜め上方向に散布する（すそ重点散布法）。また、薬液がかかりやすくするため、薬剤散布前に枝条更新（時期と樹勢により可能な場合）やすそ刈り等を行う（表2）。
- 4) 苗木を導入する場合、枝葉は可能な限り除去する。
- 5) 除去した枝葉は、土中に埋設するなどして適切に処理する。
- 6) 苗木導入園では、定植直後にマシン油乳剤を必ず散布する。

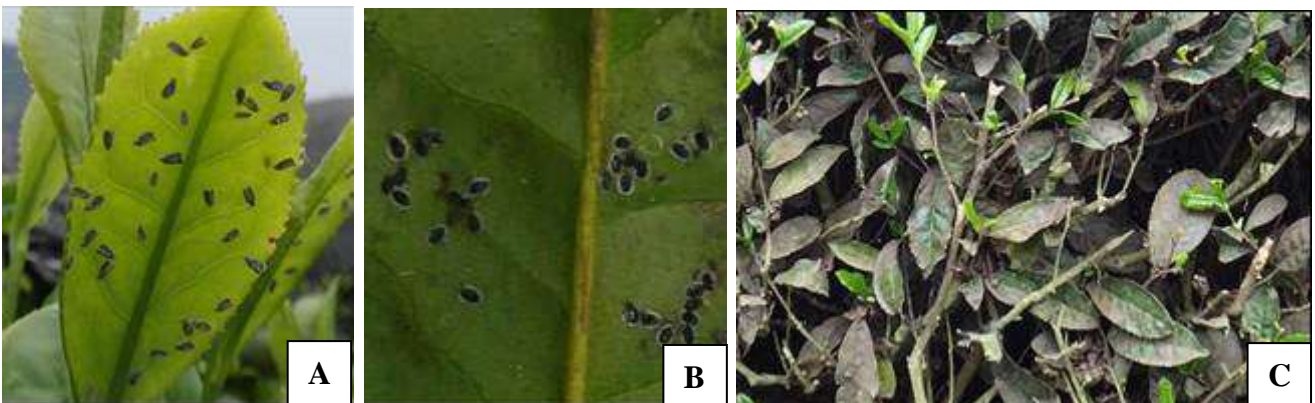


図1 本県で確認されたチャトゲコナジラミ及びそれによる茶への被害

A：葉裏に寄生するチャトゲコナジラミ成虫 B：チャトゲコナジラミ幼虫

C：幼虫が分泌する甘露により葉に生じたすす病

表1 チャトゲコナジラミの薬剤防除例※

散布時期	薬剤名	希釈倍数	散布量 (リットル/10a)	使用時期	使用回数
秋整枝後～3月 (越冬期)	アタックオイル	50～100倍	200～400	—	—
	ダニゲッターフロアブル	2,000倍	200～400	摘採7日前まで	1回
5月下旬 (第一世代 若齢幼虫期)	コルト顆粒水和剤	2,000～3,000倍	200～400	摘採7日前まで	2回以内
	アプロードエースフロアブル	1,000倍	200～400	摘採14日前まで	2回以内
7月下旬 (第二世代 若齢幼虫期)	ハチハチ乳剤	1,000倍	200～400	摘採14日前まで	1回
	コテツフロアブル	2,000倍	200～400	摘採7日前まで	2回以内
9月下旬 (第三世代 若齢幼虫期)	ダントツ水溶剤	2,000倍	200～400	摘採7日前まで	1回
	ディアナSC	2,500～5,000倍	200～400	摘採7日前まで	1回

※表中の農薬登録情報は平成27年1月20日現在のものであるため、薬剤の使用にあたっては必ず最新情報を確認する。

表2 チャトゲコナジラミの防除体系

月	旬	多発生茶園	少発生茶園
1～3月		マシン油散布 (越冬幼虫の防除)	マシン油散布 (越冬幼虫の防除)
4月	中旬	裾刈りの実施 (被覆前)	裾刈りの実施 (被覆前)
	下旬		
5月	上旬		
	中旬	一番後葉層除去 (中切り・深刈り)	
	下旬	(一番茶後の更新ができない茶園) 薬剤防除 (時期はトラップ調査による)	薬剤防除 (時期はトラップ調査による)
6月	上旬		
	中旬		
	下旬	二番後浅・深刈り更新	二茶後浅・深刈り更新 (発生程度と樹勢で判断)
7月	下旬	薬剤防除 (時期はトラップ調査による)	薬剤防除 (時期はトラップ調査による)
8月	上旬		
9月	下旬	薬剤防除 (時期はトラップ調査による)	薬剤防除 (時期はトラップ調査による)
10月			
11月	中旬以降	マシン油散布 (越冬幼虫の防除)	マシン油散布 (越冬幼虫の防除)